

みどりの風

Summer
2024
夏
No.78

特別
子ども号

特集

飛び出せ! 浜辺へ!

干潟遊びの すすめ



夏の日差しが照り付ける自然学校では、時折「ブーン」という羽音を立てて、ヤマトマムシが木々の間を飛んでいる姿が見られます。飛んでいる時はキラキラとよく目立ちますが、止まるとたん一瞬で木漏れ日の光に紛れてしまいます。

高尾の森自然学校 (運営: セブン-イレブン記念財団)

●編集発行
一般財団法人
セブン-イレブン記念財団
〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8
TEL03-6238-3872 <https://www.7midori.org>

●編集協力 弘旬館
●デザイン ドットスタジオ
●表紙写真 米持千里/アフロ
●写真 小塚正紀、アフロ、ピクスタ
●印刷・製本 株式会社ローヤル企画

みどりの風
2024年夏号 (vol.78)
2024年6月15日発行

©2024 セブン-イレブン記念財団 001-2406-34850 S.K.L.

CONTENTS

No.78
Summer 2024

特集 飛び出せ! 浜辺へ 干潟遊びのすすめ

干潟で感じよう! 生きものとのつながりを 乗代雄介	03
ささき隊長とゆく! みんなで干潟の探検隊	06
海に漂うプラスチックゴミを減らそう ——中学生社長の挑戦 mocomocoちゃん	09
やまげんの うまいもの風土記 日本一の干潟 有明海の食のめぐみ 山本謙治	12
海べの自然はおもしろい!! ゲッチョ先生のオススメ本 盛口満	16
そうか、それでわかった! われら海辺の調査隊	18
庭がなくても大丈夫 小さなビオトープの作り方 中島淳	20
自然学校で学ぼう!! “ドキドキ ビックリ”生きもののホントのすがた	22
脱炭素チャレンジカップ ほとんどが廃棄される米糠から代替肉を作ることに成功 山形大学農学部バイオマス資源学研究室	26
セブン-イレブン記念財団 2024年度「環境市民活動助成」助成先決定!	28
活動レポート	30
セブン-イレブン記念財団からのお知らせ	31

定期送付・停止の
希望はこちらから



本書は環境に配慮し、FSC® 森林証紙と植物油インキを使用しています。

干潟遊びのすすめ

飛び出せ！
浜辺へ

特集

潮が引くと、湾の奥や河口に、泥や砂の浅瀬があらわれる。貝、カニ、小魚……。そこはビックリする数の生きものの棲み家だったのだ。

干潟で感じよう！ 生きものとの つながりを

砂と泥と夕焼けと

「日がな一日」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。朝から晩までという意味で、「日がな一日、家でのんびり過ごした」という風に使います。「がな」というのが不思議ですが、もともと「日長一日」だったの言いやすいように変化したものだと考えられています。

僕は小説家で、書くための準備

として取材をたくさんします。『パイヤ・ママイヤ』という小説を書いた時は、千葉県の盤洲干潟、その中でも小櫃川河口干潟というところに何十日も通いました。朝方、背の高いヨシの原っぱに通された一本道を歩いて海に出て、日が沈む頃に帰ります。日がな一日、干潟で過ごしていたというわけです。腕時計のあとがくつきりつくほど日焼けして、信じられないほどきれいな夕焼けを何度も見ました。

のりしろゆうすけ
文・乗代雄介

1986年北海道生まれ、作家。法政大学卒。「十七八より」で群像新人文賞、『本物の読書家』で野間文芸新人賞、『旅する練習』で三島由紀夫賞受賞。22年、干潟を舞台にした小説『パイヤ・ママイヤ』を発表。自らも干潟のクリーン作戦に参加するなど、干潟の観察に造詣が深い。ほかに『掠れうる星たちの実験』など著書多数。

「干潟」というのも、聞いたことはあっても実はよく知らない言葉かもしれませんね。干潟は、川や沿岸から砂や泥が運ばれてくる、波や流れのおだやかな場所にできます。小櫃川河口干潟では、その名の通り小櫃川が砂や泥を運んできますが、河口が東京湾の内側にあるため、波や流れが弱く、砂や泥が洗い流されず広い範囲に平らに積もります。それで、潮の満ち引きで海になったり陸になったりするので、潮干狩りができる



砂浜に取り残されたアカエイに注意



ハマガニが威嚇する

潟が減る原因は埋め立てだけではなく、洪水を防ぐために川をコンクリートで固めれば流れこむ砂や泥が減りますし、温暖化が進んで海水面が上がれば干潮でも水が引かなくなります。ほかにも

人間が気付いている原因の一つに、ゴミ問題があります。盤洲干潟では毎年、クリーン作戦が行われていて、昨年は僕も参加しました。回収されたゴミは、なんと一二五〇キロです。流木からんだ漁網をはぎ取るのは大変でした

ながら、僕の場合は小説を書きました。絵を描くのも、生き物と遊ぶのも、ただのんびりするものもいでしょう。日がな一日ではなくても、見え隠れするたくさんのつながりを感じに、干潟へ足を運んでみてください。

アシハラガニの大群が

一番すごい干潮の時、小櫃川河口干潟の波打ち際はニキ口先まで下がります。海が消えて遠くの船が地平線をじりじり進んでいくように見えるし、天気がいいと富士山もそびえているし、さあどこまでも歩いていくぞという気になります。でも、六時間ほどしてまた潮が満ちれば、そこは全て海の中です。一日でこんなに景色が変わり続ける場所は、干潟のほかにはありません。そんなすごい干潟を、余すことなく小説に書きたいと思ったのです。

この実験をしている時、砂のくぼみに取り残された大きなアカエイが海に這い戻るところを見ました。尾に並んだ棘に毒のある危険な魚で、気付かずに踏んで大けがをすることもあります。せっかくなのでアカエイのことも小説に書きました。干潟は生き物の宝庫

です。鳥は冬から春にかけての方がたくさん見られて、夏の話だったせいであまり書けずに残念でした。ただ、暖かい季節は水辺でカニやエビ、貝やゴカイを探しているだけで楽しく、足の踏み場もないくらいのアシハラガニの大群がざざざざざと一斉に動く姿は何度見ても心がおどります。夕暮れ、立派な

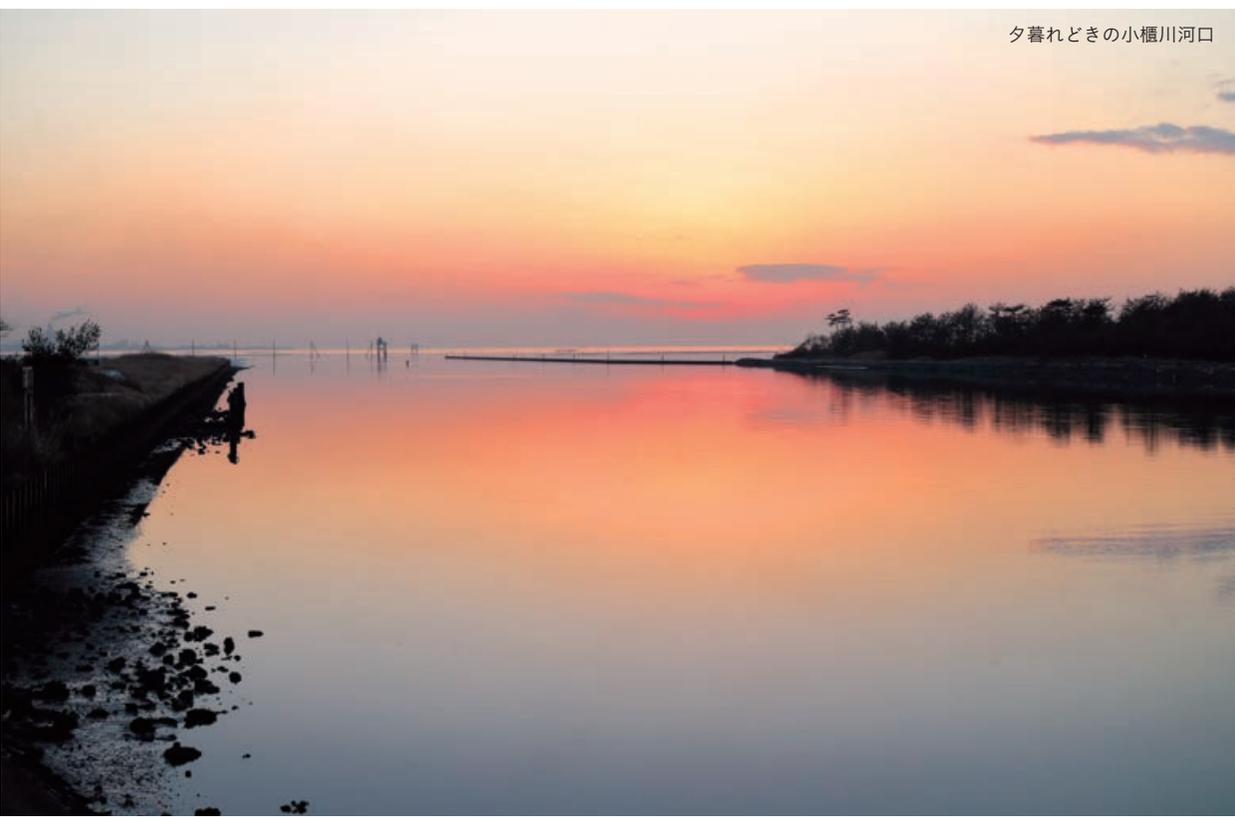
ハマガニに威嚇されたこともありましたが、千葉県では一度絶滅したと思われるいた珍しいカニです。これらの生物の関係や働きによって、干潟は「天然の浄水器」と呼ばれるほど水をきれいにする力を持っています。

干潟の主役、アシハラガニ



泥の穴から這い出たアナジャコ

一日中いて何をしているかという、小説で書く出来事のための観察や実験です。小説というのは作り話ですが、僕は干潟で本当に起きることしか書かないと決めてしまいました。例えば、沖に流されていくペットボトルが物語の力ギになるので、実際にそんな風に流されるのか実験です。ゴミを捨て



夕暮れどきの小櫃川河口

業用に使えないかという実験をした池です。上手いはずに計画は中止され、干潟が残されました。多くの川が流れこむ東京湾は条件がそろっていて、かつては海岸一帯が干潟でした。川の注ぐ穏やかな海辺は暮らしやすい、人が集まります。その点では鳥やカニと似たようなものですが、人間がちがうのは、「日長」が「日がな」に変わるように、環境やルールを変化させることです。東京湾の干潟は六十年ほど前から次々に埋め立てられ、工場や港や空港、住宅地になりました。今、東京湾には干潟が数えるほ

どしかありません。昔の海岸線が広く残しているのは盤洲干潟だけで、工場の計画が進んでいたらと思うとぞっとします。ただ、干

人間が気付いていない原因がいくつもあって、この先、全国各地の干潟がどうなるかは誰にもわかりません。

隠されている無限のつながり

干潟は無限のつながりが隠された面白いところ。干潟の中だけでも、動植物はバランスを保ちながらつながっていますし、潮の満ち引きの理由をさぐれば、月や太陽とだつながります。環境について考えるなら、人間とのつながりに注目することになります。そんなつながりをたくさん探しながら、僕の場合は小説を書きました。絵を描くのも、生き物と遊ぶのも、ただのんびりするものもいでしょう。日がな一日ではなくても、見え隠れするたくさんのつながりを感じに、干潟へ足を運んでみてください。

小さくなった海岸線

小櫃川河口干潟を上空から見ると、実に面白い形をしています。魚の頭のように、大きな目玉まである。この目玉は、昔、製鉄会社が干潟をなくして工場を建てようとした時、海水の混じった水を工

みんなので 干潟の探検隊

潮が引いてまた満ちて。
そんな干潟には
いろんな生きものがいるよ!
夏の太陽の下、さあ探してみよう。
どれだけ見つけれられるかな?

イラスト：祖田雅弘
フォト：あらいひろし(野鳥3点) ささき隊長(その他)

干潟とは、干潮時にはほぼ陸地に、満潮時にはほぼ水面下になる、底が砂や泥の場所だ。ここで生きもの観察をする時は、安全のために、必ず晴れか曇りの日中の干潮時に行こう。そのような天気でも大雨の降った翌日は川の上流からたくさん水が流れてくるので行ってはいけないよ。潮時表というもので調べると、その日のその場所の干潮時がわかるので、大人に確認してもらい、大人といっしょに出かけよう。とくに大潮という陸地が広く現れる日は観察には最適だよ。

じつは、今、開発などの影響で、地球上から干潟がとて減ってきている。観察をしながら、このすばらしい生きもののかをどうしたら守っていけるか考えてみよう。

観察に行くときは、8ページに書いてある服装と持ち物にもじゅうぶん注意してね。
(ささき隊長)



ウミネコ

「ニャーニャー」というネコのような鳴き声を出すため、この名がついたカモメの仲間。全長は約46cmで、ほぼ日本全国に分布している。尾の先に黒い帯があるのも特徴のひとつなので、飛んでいる時に確認してみよう。



コアジサシ

「白いツバメ」という感じのスマートな姿。全長約25cm。「キリッ、キリッ」という鳴き声をたよりに見つけよう。日本へは主に夏鳥として渡ってくる。環境省によって絶滅危惧種に指定されている貴重な野鳥だ。



ヤマトオサガニ

甲の形が横長のカニ。泥の干潟に、まさに、まいたようにたくさんいる。ハサミが大きなほうがオスだ。甲幅は5cmほどになり、青森県以南に分布している。オスは両方のハサミをふってメスに求愛するよ。

おもしろ
生きもの
みつけた!!

コレって
なんだ?!



ハサミシャコエビ

干潟の泥を掘ってみると、白っぽいザリガニのような生きものが出てくることがある。これはハサミシャコエビだ。大きくても体長は約5cm。泥に深さが1mぐらいにまでなる巣穴を掘ってくらしているよ。



トビハゼ

干潟でぜひ見てみたい生きもの。魚なのに水中が苦手な、干潮の泥の上を移動している。干潟全体を見渡せるよう、まるでリボンのように頭の真上に両目が並んでいるよ。体長は約10cm。東京湾から沖縄にかけて分布している。



ささき隊長 (プロ・ナチュラリスト)
1961年東京都生まれ。プロフェッショナルの自然解説者として、地球を舞台に、毎日のように自然のすばらしさを伝え続けている。NHKテレビ「ダーウィンが来た!」など出演多数。主な著書に『ずかん みんなのまわりの気になる生きもの』(技術評論社)、『きみのすむまちではっけん! とりのミステリー生物ずかん』(時事通信社) などがある。



moco
moco
ちゃん

株式会社 moco Earth
取締役社長

海に漂うプラスチックゴミを減らそう——中学生社長の挑戦

豊かな海の環境を取り戻したいと、なんと会社を立ち上げた少女がいる。目標は「海洋プラスチック」ゴミをなくすことだ。起業したのは小学4年生のとき。事業化したゴミ拾い活動は3年目を迎えた。さて中学生社長のアイデアとは？

オンラインの環境問題の講座を受講して受けた衝撃

——モコモコ（細井愛茉）ちゃんが海洋プラスチック問題を知ったのは小学3年生のとき。2021年のコロナ禍のさなか、自らすすんで学習したオンラインの講義だった。

モコモコ 専門家の先生が、世界の格差の問題とか環境問題とか、さまざまテーマについて語る講座を受講しているうち、プラスチック容器や日用品の破片などのゴミが海に流入すると、海洋プラスチックとして漂い、海の生きものたちの暮らしを脅かしていることを知ったのです。カリキュラムのなかで環境保護活動家の谷口たかひささんが「環境に対して無関心な人は

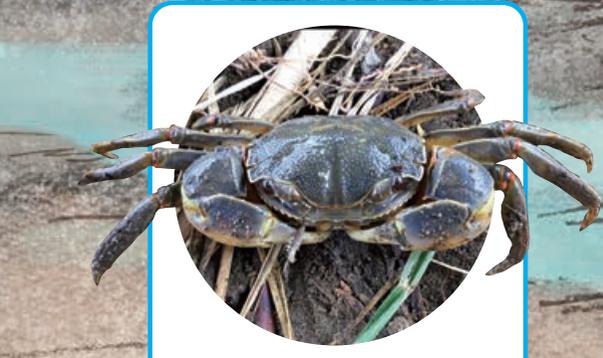
mocomoco（モコモコ）細井愛茉（ほそいあま）2011年生まれ。2022年3月、10歳で株式会社 moco Earth（モコモコ）を立ち上げ、小学生起業家として注目を集める。ワークシヨップやゲームを通じ、環境問題に目を向けさせる活動を実施。mocomoco（モコモコ）のニックネームで活動している。アースデイ東京2023では実行委員を務めた。



アオサギ
両方の翼を広げた時の長さが約1m60cmにもなる日本最大のサギの仲間。ほぼ日本全国に分布している。驚くほど大きな「ギャア」という声で鳴くよ。小さな流れのそばや、くいの上でよくえさとなる生きものを狙っているよ。



帽子をかぶり、夏でも長そで長ズボンで、手袋をつけて、長ぐつをはこう。ガラスや貝がらなどで足を切らないために、はだしやサンダルで干潟へ入ってはぜったいにいけないよ。水筒やペットボトルの飲料水を少し多めに持っていき、熱中症にならないよう、こまめに水分補給をしてね。念のため、ばんそうこうなどの簡単な救急用品も忘れずに。小さな網やバケツ、荷物を置くビニールシートなどがあると便利だ。干潟には危険なアカエイなどもいることがあるので気をつけてね。



アシハラガニ
その名の通り、ヨシの生えている場所に多い。大きなものは甲幅が約4cmになるよ。全体が青みがかっていて、ハサミの先の方が白いよ。とても強そうな見かけに似合わず臆病で、人の気配を感じるとすぐに穴の中に逃げこむんだ。



いても、無関係な人はいない」とおっしゃっていたことがとても印象に残っています。

——じっさい海洋プラスチックの8割以上が陸で発生したものだ。プラスチックや袋など、私たちが使ったものが捨てられたり風で飛ばされたりして河川に入り、それらが流れに乗って海に出る。

モコモコ 画面越しですが、ゴミをエサと間違えて誤飲したりゴミに絡まったりしている海の生きもの

海洋プラスチックについて学ぶことができる「サムトル」のゲーム説明画面



ムトル」という、仮想空間でゴミ拾いを楽しみながら海洋プラスチックについて学ぶゲームの開発です。プログラミングができる仲間がシステムを作ってくれました。「サムライ」「トラッシュ（ごみ）」「取る」の3つをくっつけて、「サムトル」。日本にいる人たちがゴミ拾いを楽しめるように、とネーミングしました。

——「サムトル」は、Web上でシステムの申し込みをした後、制限時間内にどれだけたくさんゴミを拾えたかを競う。拾ったゴミは「ゴミー」という単位に換算され、「ゴミー」は数値に応じて地域の特産品などと引き換えることができる。ゲームを始める前に海洋プラスチックの問題についての解説があり、なぜ街なかのゴミを拾う必要があるのか知る。

モコモコ 最近「サムトル」を社員研修に取り入れたという会社にお声がけいただきました。働く人

ゴミに価値を与え環境問題を解決しようというmoco Earthのビジョンを描いた絵



の姿を見て、いてもたってもいられなくなりました。私たちにできることはないか。小さな一歩だけ、私が住んでいる街のゴミ拾いを始めようと、同じ講座を受けた仲間とクラブを作りました。

街なかのゴミをなくすには、「世の中の考えを変えなきゃ」と会社を変えなきゃ」と会社を

——実際にゴミ拾いをしてみると、街のなかに驚くほどたくさんモノが捨てられていることがわかった。なかには、汚物の入ったペットボトルを見つけ衝撃を受けたこともある。

モコモコ でも、それを捨てた人

には、きつとそうしなければならぬ事情があったのだと思います。少したつてから、その人を責めるのではなく、そんなことをしなくてもすむように世の中の仕組みを変えていかなければ、というような考え方になりました。

会社を作ろうと思ったのは、それには、具体的な行動と仕組みが

の価値観が変われば、SDGs達成に向けて大きな一歩になります。「サムトル」の景品に特産品を選んだのも、地域の特産品を買取することで地元経済に少しですが貢献できるし、つながりができると思ったからです。地域とモココアースがつながることで、環境問題に目を向けてくれるクラスターを増やせば、と考えました。

私たちが「ゴミ拾いは、いいことだ」と信じていても、それが誰かの仕事を奪っていることだってあります。だから地域とはいっても理解し合える関係を作っておかなければ



サムトルを始める前に、海洋ゴミの問題を説明するモコモコちゃん

必要だと思ったからです。街なかのゴミを拾うことが会社の事業として成り立てば、世の中の考え方も変わります。

ゴミ拾いはやりがいがありました。が、飽きてきたなと感じるときもあって。また自分たちだけで拾えるゴミの量には限界がある——そう気付いたことも起業への後押しになりました。

——モコモコちゃんの周りに起業家がいたわけではない。しかし「世の中の価値を変えるには会社を経営するしかない」という思いは強かった。

モコモコ 会社を作ろうと思



お話を伺ったアースデイ東京2024の会場でもサムトルを開催。デモンストレーション中のモコモコちゃん

ればなりません。地域の特産品を取り扱うのも、コミュニケーションをとるための入口のひとつです。

今度は、アートの力で社会の価値観を変えていきたい

——中学生になったばかりとはとても思えない理解力と行動力、そして意志の強さ。悩むことはないのだろうか。

モコモコ 会社という組織のなかで人間関係を調整するというのは、ほんとうに難しいですね。ビジョンを達成させるための想いが同じ

した。事業計画書を作り、私が本気であることを力説すると、父も母も協力するといってくれました。でも、私の家はごく普通のサラリーマン家庭。お金にゆとりがあるわけはありません。開業資金は学資保険を解約して当てました。もしかすると大学進学るときは、お金で苦労するかもしれません。自分がやらなければ、誰がやるの?と覚悟を決めました。

楽しみながら環境保護がわかるゲームを開発

——株式会社モココアースを起業したのは小学4年生のとき。ワークショップや講演会を開催したり、みんなに会社を知ってもらおうと努力した。

モコモコ アップサイクルのワークショップなども開催しました。海岸で拾ったゴミを使ってアート作品を作ったり、広島県の福山デニムのメーカーから廃棄処分される端切れを購入しプレスレットなどに加工したりと。

なかでも評判になったのが「サ

熱量にはならなくなって、チームにまとまりがなくなり、リーダーを降りたこともあります。目的を達成するためには集まったメンバーの考えを尊重しながら進めることが大切だと考えました。私は、自分の力で大きなことを成し遂げたいというよりも、生物や地球を守っていききたいだけなんです。

同じぐらいの歳の子たちに活動を理解されなかったり、反発されたりして悔しい思いをすることもあります。でも、だからこそ、いい結果を出してやろう、といつも前向きに考えています。

——世の中の価値観を変えることに意欲を持っているモコモコちゃんは、将来、美術系の大学に進学したいと考えている。

モコモコ もともと絵を描くことが好きなので、言葉だけではなく、アートの力を通じて、人の価値観を変えていきたいというのが今の気持ちです。

——13歳にして社会起業家として活躍中のモコモコちゃん。今後はアーティストとしての活躍にも注目したい。



大きく、6メートルもの差が生まれる場所もあります。道路にある信号機の高さが5メートルほどなので、それより高い差が生まれるのです。

有明海の特徴②
見渡す限りの
どろんこ場、「干潟」

さて、潮が引いた干潮の時には、見渡す限りがどろんこの状態となります。湾内を潮が大きく満ち引きすると、川から流れ込んだ土砂が大きくかき混ぜられ、どろんこ



干満差の大きい有明海では、干潮時に広大な干潟が現れ、その面積は日本最大になる



日本一の干潟

有明海の食のめぐみ

文・写真
山本謙治

Profile
やまもと・けんじ 1971年愛媛県生まれ、埼玉県育ち。慶應義塾大学在学中から野菜の栽培にいそしむ。2004年グッドテーブルズを設立、農産物流通コンサルタントとして全国を駆け巡る一方、ブログ「やまけんの出張食い倒れ日記」を書き続ける。著書に『日本の「食」は安すぎる』『炎の牛肉教室!』などがある。



干潟には、多種多様な生きものが生息しており、えさをとりに野鳥もたくさん訪れる

干満の差と干潟がおりなす、豊かな灰色の海

海の色は何色でしょうか？「青いよ。」「いや、緑色に見える時もあるよね。」「透明で、白い砂が見える海もあるでしょう。」「などなど、いろんな海の色をみたことがあるでしょう。海の色は太陽の光と海底の砂の色の関係で決まります。太陽の光は虹と同じ7つの色が混じり合っていますが、その中で青色の光が海の中を進んでいけるため、海は青っぽくなります。そして、底にある砂が白いと、青と白が混ざり合ったエメラルドグリーンになるといわけです。さて、それでは灰色から黒い色の海をみたことはありませんか？

有明海の特徴①

とても大きな干満の差

九州の福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県にまたがる有明海という海があります。陸地に囲まれた1700平方キロメートルもの広大な海で、外の海とは大きく違った特徴を持っています。その1つ目が、潮の満ち引きによって海面の高さが大きく変わるこ

有明海の特徴③

干潟に生きる不思議で楽しい魚たち

泥や砂でできた干潟というどろんこ場には、ワタリガニやシバエビ、アサリといった他の地域にもいる魚介類もいますが、日本全国見渡してもここ有明海にしかないという珍しい生きものが棲んでいます。エツにメカジヤ、クチゾコにワラスボ、ワケノシンノスにムツゴロウ……いったいそれ、

どんな生きもの!? これらの写真を見るともっと驚くと思います。ギョロツとした眼が飛び出たムツゴロウにカラフルなイソギンチャク、靴底のような平たいヒラメ、宇宙からやってきた怖い生物のようにしかみえないワラスボ。どれも、他の海ではみられないユニークな生きものばかり。こうした、有明海特産種と呼ばれる生きものが23種類もいて、環境省が指定する「生物多様性の観点から重要な高い海域」に選ばれています。なぜこんなに珍しい生きものがいるのか、理由があります。200万年前、九州地方は現在の中国や朝鮮半島と陸続きだったそうです。それらの国々では有明



メカジヤ



イソギンチャク (有明海ではワケノシンノスと呼ぶ)



ワラスボ

海と同じ生きものが現在も生息しています。それから地形の変化や海面上昇があつて、日本と大陸の間には海ができました。でも、海底の生きものはその頃から変わっていないのです。

「ホネホネすいぞくかん」

西澤真樹子・監修／解説
松田素子・ぶん（アリス館）

食事の際に魚に骨があることは目にしても、きれいに骨格標本になった魚は、あまり目にする機会がないかもしれない。「ホネホネすいぞくかん」の題名のとおり、いろんな魚の骨が次から次に登場する絵本。また、魚だけではなくアシカやクジラの骨も紹介されている。夕飯の魚をしげしげ見たくなるかも。



「干潟に生きる小さな貝たち」

小倉雅實・著 江良弘光・画／マンガ（八坂書房）

干潟と呼ばれる遠浅の海岸にすむ小さな貝のくらしぶりをていねいに追って紹介している読み物。貝にも目がある…それも9つも目がある二枚貝があるとか、知らないことばかりが紹介されている。本文に添えてマンガもあるので、マンガだけ先に読んでからじっくり本文にとりかかってもよいかも。

「海へのふしぎな生きものたち」

よしざきかずみ・写真 とりないけいこ・文
（岩崎書店）

題名のとおり、「なんじゃこりゃ？」と言いたくなるような写真が次々に登場する写真絵本。表紙を飾るのは、まるでタワシのような生きもの。ウニの仲間のブンブク（名前も変）だ。でも、この絵本に紹介されているのは、潮が引いたら気軽に見に行けるような海岸に見られる生きものばかり。



「新・海辺を食べる図鑑」

向原祥隆（南方新社）

海人にはなれなくても、海にいて、なにか自分で食べるものを探してみたいと思ったら、この本が参考になるかも。中にはアメフラシみたいに、「本当に食べられるの？」と思うものまで紹介されているけれど、もちろん、毒や危険のある生きものもあるから、この本だけに頼ってはいけない。



「チリモン博物誌」

きしわだ自然友の会（幻戯書房）

食卓の上でも、「海の生き物」さがしができる。それがチリモン探し。チリモンジャコに混じっている、稚魚やタコ、カニの子供は実にへんてこな姿をしている。それらをまとめて、チリモン（チリメン・モンスター）と呼んだりするけど、そのチリモン探しのガイドブックだ。



「貝のふしぎ発見記」

武田晋一（少年写真新聞社）

貝というと、海岸で拾う貝殻や、スーパーで売っているアサリやシジミばかり思い浮かべてしまいがち。でも、貝だって生きています。様々な貝が自然の中でどんなふうにいるのかを紹介している絵本だ。「イカだって貝」「タコだって貝」というページもあって、これで貝の基本はばっちり。



「海を歩く 海人オジとシンカノ海」

西野嘉憲
（ポプラ社）

海でくらしするのは、生きものたちばかりではない。海から獲物を捕って暮らす人々もいる。沖縄では漁師のことを海人（うみんちゅ）と呼ぶ。海に潜って魚を網に追い込む海人の漁の様子をカメラで追った写真絵本からは、人間もまた、海の生きものになれるんだということが伝わってくる。



「ぼくは貝の夢をみる」

盛口満（アリス館）

珍しい貝殻を拾って喜ぶ夢をよく見るほど、海岸での貝殻拾いにはまっていた「ぼく」は、ある日、もっと南の地域に行かないと拾えないはずの貝を拾いあげた。その謎が解けたのは、大人になってから。海岸で拾える貝殻からも、いろんなことが見えてくることを紹介した読み物。

「サンゴしょうの海 たくさんのふしぎ傑作集」

本川達雄・文 松岡達英・絵（福音館書店）

沖縄のサンゴ礁の海で見られる生きものたちを、精密で、なおかつ親しみやすいタッチで描いた絵本。サンゴ礁で見られる様々な生きものたちの共生についても知ることが出来るほか、サンゴの体のしくみや、オニヒトデがサンゴを食べる様子もわかりやすいイラストで紹介されている。



「日本と世界のタカラガイ 256種」

黒住耐二・解説（誠文堂新光社）

まるっこい形をして、種類によって様々な模様をもつタカラガイの仲間は、貝殻を集める人の中で人気の高いグループだ。この図鑑を見ると、世界には、タカラガイだけでこんなにたくさんの種類があることがわかる。タカラガイはかつて中国ではお宝として使われたが、解説の中で人との関わりもふれられている。

「日本の渚」

加藤真（岩波新書）

小学生のみんなには難しい本かもしれないけれど、「海岸」には、どんな種類があるかわかるだろうか。河口、干潟、藻場、砂浜、サンゴ礁、ヒルギ林…そのそれぞれに、どんな生きものたちがいるのか、そして、その生きものたちが今、どんな危機にあるのかをていねいに解説している。文章もとてもすずななのでいつか読んでほしい。



海への自然は
おもしろい!!
ゲッチョ先生の
オススメ本



文・盛口満

Profile もりぐち・みつる 1962年千葉県生まれ。千葉大学で生物学を学んだあと、理科教員となり、「ゲッチョ先生」の名で中高生に親しまれる。現在は沖縄大学教授。『ゲッチョ先生と行く沖縄自然探検』『おしゃべりな貝』『身近な自然の観察図鑑』など著書多数。

「わかれら 海辺の調査隊」

そうか、それでわかった!

干潟や海辺は自由研究のテーマの宝庫だ。

熊本県と長崎県の中高生は地元の干潟にすむ貝類と生息環境の影響を調査。

山口県の中学生チームは、「鳴き砂」が減少していることに注目、その現状と復活を考えた。

アサリの殻の模様はなぜちがう?

アサリの貝殻には、なぜいろいろな模様があるのだろうか?——当時熊本県芦北町立田浦中学3年だった松永明莉さんは、みそ汁の具のアサリを見て不思議に思った。

「フトヘナタリ」の大きさが極端に違うわけ

長崎県立長崎北陽台高校の生物部員だった大森春音さんは2年生の頃、干潟に生息する巻貝で唯一、ヨシなどの植物に登る「フトヘナタリ」が生息域によって、大きさが異なることに気づいた。同級生の浦川大輝さんと「フトヘナタリの『表現型可塑性』に関する研究——生息環境がどうとどうしてこんなにサイズが違うの?」という研究テーマで、22年度日本学生科



多以良川河口に生息し、大きさが極端に異なるフトヘナタリ (大森さん提供)

海岸環境の「バロメーター」、 「鳴き砂」を復活!

山口県防府市立国府中学の科学部チームは、24年2月に東京都内で開

理科の甲斐大樹教諭に話すと、「自由研究のテーマにしてみたら」と勧められ、同学年の粕谷美月さん、松岡咲良さんと研究を始めた。アサリを養殖し、出荷する田浦漁協の漁師さんは、海岸の場所を変えてアサリを採取しているが、「白い砂地では白いアサリが、黒い所には黒いアサリが多く採れる」という。そこで3人は「アサリの貝殻の模様は生息する環境に左右されるのではないか」と考え、3つの仮説を立てた。

学賞の環境大臣賞を受賞。23年5月には米国で開かれた世界最大の学生科学コンテスト「国際学生科学技術フェア」で研究内容を発表した。ヨシ原が通年で見られる、長崎市多良町の多以良川干潟に生息するフトヘナタリは、長与町総合公園ふれあい広場横の側溝のフトヘナタリより、極端に小型なのはなぜか。調査の結果、多以良川干潟は年間のうち94・5%の日が冠水することがわかった。多以良川河口に生息するヨシの大きさは平均2・5mmで、長与町のヨシ原のヨシの大きさは(平均6・7mm)の約3分の1程度と大変細い。フトヘナタリは海水を避けるため、細いヨシでも登れるように成長を抑制し、小型化することで環境に順応していたのである。

①黒い貝殻は生息する土の色が黒いため、敵から見つからないようにするため②海水の成分がアサリの貝殻の模様に影響を与えているのでは? ③2020年度の豪雨災害でストレスを受け、模様が変わった可能性がある。2023年3月24日、4月20日、8月4日の3回、漁師さんと、スコップと熊手で砂や泥を掘り、アサリ483匹を採取。海水を入れたボウルにアサリを入れて、冷蔵庫で保管した。田浦海岸の土の色とアサリの貝殻の表面を比較すると、貝殻の模様が土の色に近いことがわかった。土の色以外に、海水の成分も、多

催された「マリンチャレンジプログラム2023 全国大会」で「山口県の漂着ゴミ調査」プラゴミからカブトガニと鳴き砂を守れ」という研究結果を発表、主催者のリバネス賞を受賞した。鳴き砂は、石英質の砂を踏むと、「キュツ、キュツ」と砂同士がこすれて音を発する現象。砂の表面がきれいになど、よく鳴き、汚れがひどいと鳴かなくなる。メンバーの一人は「この音は海岸環境のバロメーターだ」という。研究チームは、鳴き砂の浜として知られる清ヶ浜など県内外6か所の鳴き砂海岸を調査した。それぞれの海岸の砂に含まれる石英の含有率を調べると、清ヶ浜は80%程度で鳴き、50%程度では鳴かない。平均すると65%以上の含有率で鳴き、80%以上だと、よく鳴くことがわかった。

鳴き砂が鳴くのは石英が多く含まれているからだけではない。異物が混じっていないことも条件の一つだ。そこでチームは鳴き砂にマイクロプラスチックの小粒、大粒、炭や灰を加えて実験した。最初は自分の耳で、次に



松永さんから3人が採取したアサリ (甲斐教諭提供)

様な貝殻の模様を生み出すものになると推測できた。20年度の豪雨災害でストレスを受けたアサリは、3年たっても回復していなかった。この研究は23年度日本学生科学賞で、熊本県中学の部の優秀賞を受賞した。3人は24年4月から別々の高校に進学したが、いまま「自然豊かな田浦海岸の環境を守りたい」という思いは変わらない。「今回の研究で環境問題に関心を持った。自然に優しい化粧品を作る仕事をしたい」(松岡さん)。



昨年6月頃に山口県萩市小原浜で鳴き砂の調査をする国府中学科学部チーム (藤村佳子・顧問教諭提供)

より客観的な評価を得るために、音質評価用のアプリを開発。その結果、鳴き砂50gに異物0・1gが入ると、鳴かなくなることや、異物は粒が小さければ小さいほど、鳴き砂への影響は大きいことがわかった。異物が入った鳴き砂を復活する方法も探った。まず、鳴き砂にプラスチックを混ぜたものを水に入れ激しく振る。その後、ろ過することでプラスチックを取り出すことができた。ただ、異物が油の場合は鳴き砂の復活は難しいという。海辺でバーベキューをするときなどは、とくに注意が必要だ。海辺を守るには、まず、環境の調査から。若い力のバトン・リレーが続く。

庭がなくても大丈夫！ 小さなビオトープの作り方

監修：中島 淳 イラスト：まえじまふみえ

Profile：なかじま・じゅん しゅんたい 湿地帯生物研究者。博士（農学）。1977年、東京都出身。専門は淡水魚・水生昆虫の生態学と分類学。生き物の観察会や講演会の講師もしばしば行う。インターネット上では「オイカワ丸」として活動中。著書に『日本のドジョウ』（山と溪谷社）、『自宅で湿地帯ビオトープ！ 生物多様性を守る水辺づくり』（大和書房）などがある。



③ 植木鉢の高さは水を入れた時に水面よりも低くなる程度のサイズにします。



④ 水を入れたところです。水面の高さに土の斜面（エコトーン）が来るようにします。



⑤ ケシカタピロアメンボ（右）：最大2ミリメートルほどの小さなアメンボの仲間。シオカラトンボ（ヤゴ）（左）：いつのまにかビオトープでうまれていることが多いです。

植物や生きものを水路や池から採集するときは、管理している人や団体から許可をもらいましょう。買って来た魚や水草を入れた場合は、増えても絶対に野外に捨てたり逃がしたりしないようにしましょう。もっと詳しく知りたい人は、『自宅で湿地帯ビオトープ！ 生物多様性を守る水辺づくり』（大和書房）を読んでね！



植物はセキショウ、ミゾソバなど近くでみかけた種類を用意しよう。

生きものは入れなくても大丈夫。アメンボ、ヤゴなどが自然にやってくるのを待とう。

睡蓮鉢の大きさはベランダの広さに合わせて決めよう。園芸用のコンテナなどでもOK！

多くの水辺の生きものにとって、陸と水の間にあまるまいな環境、「エコトーン」が重要です。小さな睡蓮鉢でも上手くエコトーンをつくることができれば、トンボやアメンボなどを呼び寄せて生息地にすることができ、小さくても良い環境を少しでも再生していくことは、生きものを守ることにつながります。小さな湿地帯ビオトープづくりにぜひ挑戦してみてください。



② 植木鉢を中に入れて土を入れていきます。



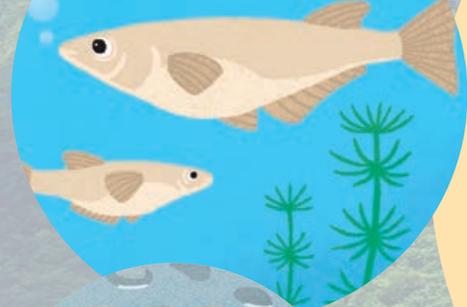
① 睡蓮鉢とそこに中に入れる植木鉢、土、植える植物などを用意します。植物を入れる場合は住居周辺の川などから採集してきたものがよいです。



里と川 編

昔からの里と川との
つながりを学び、
自然学校からの水が流れる大沢川で
生きもの観察しよう。

大沢川で水質調査と生きもの調査を行いました。人と生きものが共存する“里”という環境を学んだ後、大沢川へ。水質はきれいでしたが、源流よりも若干濁っているという結果に。生きものはカワムツ、メダカ、オヤニラミ、カワゲラ類などを観察できました。源流部では観察できなかった魚類が見られ、環境の違いを感じられました。



自然学校で学ぼう!!

ドキドキ ビックリ! 生きもののホントのすがた

夏休みに、生きものと出える「自然学校」へ遊びに来ませんか。
セブン-イレブン記念財団が運営する自然学校では、図鑑でしか見たことのないよう
な昆虫や草花を近くで見ることができます。緑の中で“発見”を楽しんで。

森、里、川、海のご縁を考える

「自然学校」の教室は、豊かな自然の中にあ
ります。机に向かって勉強するのではなく、野
山や水辺で本物の生きものと出会う体験型の学
校。図鑑で見た花はどんな香り？ テレビで見
た虫はどれくらいの大きさ？ 森の中で発見、
観察し、五感を通じて生きものを知りま
す。自分の心と身体で自然を身近に感じてくだ
さい。

自然学校と呼ばれる施設や活動団体は全国各
地に多数あります。セブン-イレブン記念財団
が運営しているのは、「高尾の森自然学校」「丸
重ふるさと自然学校」の2カ所。高尾の森自然
学校があるのは、都心から電車で約1時間半、
高尾山の近くにあり。東京ドーム6つ分の
広大な森の中に、カワセミ、ホトトギス、ゲン
ジボタルなど、希少な生きものが生息していま
す。

森の奥には、土から水がしみ出て川になる「源
流」が見られる場所も。高尾の森自然学校では、
「森里川海のご縁を学ぶ」という体験プロ
グラムを行いました。高尾の森自然学校(森里)
に降った雨は、土にしみ込み、地下水となっ
てくわえられます。その水は少しずつしみ出し
て川となるのです。大沢川から多摩川(川)を
通じて、東京湾(海)まで流れていきます。4
回のプログラムで、自然学校から海までをたど
りながら、水と自然、人間のつながりについて
考えました。そのようすを紹介しましょう!

海の再生 編

アマモの再生の現場
(UMIプロ)で
ボランティア活動しながら、
自分たちでできることを考えよう。

セブン-イレブン記念財団が取り組む
「東京湾 UMI プロジェクト」に参加。
木更津市金田漁港でアマモ場の再生活
動を行いました。アマモとは、海中の
栄養を吸収して酸素を放出することで、
海水を浄化する海草。アマモなどの藻
場や干潟、マングローブ、プランクト
ンなどは二酸化炭素を吸収します。温
室効果ガス削減の切り札と考えられて
いるのです。



都市と川 編

都市を流れる
多摩川中流域の生きものを
観察し、川の歴史を学ぼう。

二子玉川公園にご協力いただき、多摩
川の特徴や歴史を学んだ後、実際にど
う活用されているかを見学し、多摩川
の水質調査・生きもの観察を行いました。
タイワンシジミ、ヌマチチブ、ドジョ
ウ、シマドジョウ、ウキゴリ、それから、
ハグロトンボ、アオイトトンボのヤゴ
などを発見。海とつながっていること
で見られる生きものも観察できました。

森から出てきた
最初一滴から、水源の森の
生物多様性について学ぼう。

自然学校の森に降った雨がわき出ている場所から林内の沢を歩き、
水質と生きもの調査を実施。水質はきれい、ヤブヤンマのヤ
ゴやホトケドジョウ、カワニナなど沢地特有の生きものが見つかりました。その後は大沢川への合流地点まで沢下り。森から生まれた水が川までつながっていることを体感できました。



イラスト 山口夕希子





／ オケラの前足はびっくりするほど力強い！

生きものがにぎわう季節

8月

約20種類の生きものたちを見つけることができました。中には絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)に指定されているコガタノゲンゴロウやガムシの姿も。

／ ミズカマキリをゲット！



／ お父さんと協力して生きもの採集

くじゅう 九重ふるさと自然学校では？



九重ふるさと自然学校は、大分県くじゅう連山のすそ野に広がる飯田高原にあります。草原のはぐくむ生きものの豊かさ、風景の美しさが魅力。また、“自然共生型田んぼ”ではお米も生きものもすくすく育っています。昨年行われた「田んぼの生きものさがし」のようすを紹介しましょう。今年も7月、8月、9月に開催されます。

／ ゲンゴロウの仲間のシマゲンゴロウだよ！



田植えから2週間

6月

オタマジャクシやドジョウ、コオイムシ、トノサマガエルなど、さまざまな生きものを観察できました。



／ ドジョウがおっただー！

／ スタッフがコツを伝授

生きものにとって、田んぼは「家」。お米を育てる場所というだけではなく、生きものをはぐくむ場所でもあるのです。九重ふるさと自然学校では、生きものたちがすみやすい「自然共生型田んぼづくり」を行っています。

田んぼが黄金色にそまり始める

9月

トンボの採集も行いました。田んぼを飛び回るトンボたちに大人も子どもも苦戦……。それでもコツをつかんでくると、ナツアカネやオシオカラトンボなどが捕まりました。



／ オニヤンマを発見！

オニヤンマを含め、コオイムシ、ミズカマキリ、ガムシ、コガタノゲンゴロウ、ハイロゲンゴロウ、ツチガエル、アマガエル、ドジョウ、マユタテアカネ、アキアカネなど、合計23種類の生きものが採集できました。

／ トンボを追いかけて、走る！



／ 触ってみるのも生きもの観察の楽しみです



7月

夏の青空の下で

ミズカマキリが十数匹と例年より多く、ビックリな結果に。ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ドジョウ、タカハヤ、マツモムシ、アメンボ、ゲンゴロウの仲間たちなどなど、たくさんの生きものと会えました。



／ 飛び跳ねるトノサマガエル

／ 水そうで泳ぐ生きものに夢中

／ 「何かいた？」 「カエル捕まえた〜！」





日 本人の主食といわれる米には、さまざまな栄養素が含まれている。その7割以上は炭水化物だが、次に多いのがたんぱく質だ。

山形大学農学部バイオマス資源学研究室のグループは、脱脂米糠からたんぱく質を取り出し、代替肉を作ることになった。それはまた、大量に廃棄されていた脱脂米糠を活用し、食品ロスと焼却処分にもなる二酸化炭素(CO₂)の排出を減らせる画期的な技術でもある。

「2012年に米どころの山形に赴任し、お米を加工する企業から脱脂米糠の処理に困っていると聞いたのです。私は前任地の広島で、精米メーカー（株式会社サタケ）と共同研究をおこない、脱脂米糠からリン化合物と高濃度のたんぱく質を固形物で回収・精製するプロセスを開発していたので、この技術を代替肉の製造に応用できないかと考えたんです」と、研究を指導した渡辺昌規・山形大学教授は話す。

脱脂米糠からたんぱく質を抽出

米糠は玄米の精米過程で生まれる



それらの高いハードルをクリアできたのも学生たちのおかげです。研究や教育は、目的までのプロセスが重要。実験とデータを積み重ねながら、今日の企業や社会が抱える問題と研究の意味を理解する体験学習の効果もありました」（渡辺さん）

お米から肉を——さまざまな効果



農学部のテーマは広く、食料危機や地球環境の変化を背景に、廃棄物処理や環境対策など、近年、食料供給システムの出口を解決する必要性が高まっている。未利用のバイオマスを活用する山形大学の独自研究、「お米から肉——脱脂米糠からの代替肉の製造」は、2024年2月、「脱炭素チャレンジカップ2024」でセブン-イレブン記念財団最優秀地域活性化賞を受賞した。「山形産の『はえぬぎ』も、セブン-イレブンのおにぎりに使われているんだと思うながら研究していたので、今回の受賞は嬉しい。米糠たんぱく質からつくった代替肉は、糖や油脂を組み合わせたときの加工の仕方次第で、弾力や食感を調整できま

ほとんどが廃棄される米糠から代替肉を作ること成功

山形大学農学部バイオマス資源学研究室

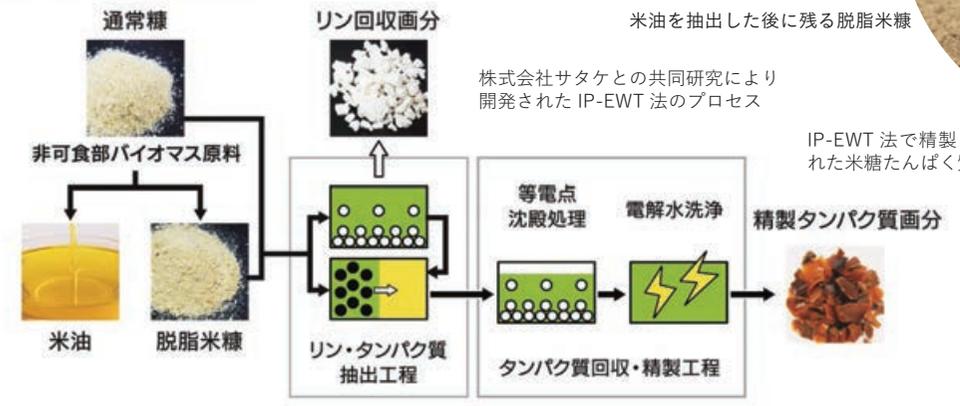


学生と研究に臨む渡辺さん



研究室で開発した米糠たんぱく質を主要原料とする代替肉

IP-EWTプロセス



米油を抽出した後に残る脱脂米糠

株式会社サタケとの共同研究により開発されたIP-EWT法のプロセス

IP-EWT法で精製された米糠たんぱく質



代替肉の技術開発には学生たちも大きく貢献



国産米の米糠たんぱく質は、人にも環境にも安全安心。代替肉やサプリメント、医療食にも利用しやすい

外皮や胚を含む粉末で、ぬか漬けや米油の製造などに使われる。脱脂米糠は、米糠から油分を取り出したあとの残りカスで、米油の製造過程では、原料のじつに80%以上が脱脂米糠になる。脱脂米糠の多くは廃棄され、用途の拡大が課題になっていた。2012年に応用研究を始めた渡辺さんたちは、脱脂米糠からたんぱく質をより高濃度・高収率で抽出、回収、精製する「IP-EWT法」を2018年に開発。2022年、大豆由来のものと同等の食感をもつ代替肉の製造に成功した。「収率を上げると、米糠たんぱく質の濃度（含有量）が落ち、濃度を上げると収率が下がる——矛盾点をクリアするには、だいたいが試行錯誤しました。でもその甲斐あって、抽出の前処理でミネラルを除去すると収率が上がり、精製時に電解水で洗浄すると濃度が上がることが判明。さらに細かい要素を積み重ねてこの技術を確立したのです。『国産バイオマス（有機性資源）による環境調和型の技術』を実現するという使命がありましたので、有害な薬品を使わないことも重視しました。

す。たとえば柔らかくすれば、高齢者向けのたんぱく源や介護・医療食になります。もともと水稲は、輸入に頼らない米だし、原料は非可食部ですから、米の利用と農家の収益の拡大、地産地消、循環型農業の振興につながります。畜産や他の代替肉と競合するのではなくて、むしろ選択肢を増やすことで、それぞれのたんぱく源を安定的に持続させる。それは食料安全保障の強化につながるんです」（渡辺さん）

日本は、食事の欧米化によって、小麦や大豆、畜産物や肥・飼料を輸入に頼り、食料自給率は4割に満たない。また、高齢化が進行するなか、筋肉や骨などの運動器官に障害が起き、要介護や寝たきりになる、いわゆるロコモティブシンドローム（運動器症候群）の増加が心配されている。自然を循環させながら、骨や筋肉のもとになるたんぱく質をつくる

渡辺さんは、米糠たんぱく質の用途を速やかに広げ、食と栄養、ひいては地球環境を守ることになげようと考えている。

（取材：2024年3月）



審査について

助成先団体選定は、透明性と公正性を高めるために、活動分野ごとに審査する専門審査会と、その結果をもって広い視点から審査を行う最終審査会の二審査制をとっています。
原則3年間継続して支援するNPO基盤強化助成は、最終審査会においてプレゼンテーション審査を実施しています。

●専門審査会審査員

活動分野	担当審査員
自然環境の保護・保全	森林の保護・保全 宮本 至 (NPO法人 森づくりフォーラム 事務局長)
	里地里山の保全 竹田 純一 (株式会社 森里川海生業研究所 共同代表)
	里海の保全 木村 尚 (NPO法人 海辺つくり研究会 理事・事務局長)
	その他の自然環境の保護・保全 横山 隆一 (公益財団法人 日本自然保護協会 参与)
野生動植物種の保護・保全	吉田 正人 (筑波大学大学院 教授)
総合環境学習活動	加藤 超大 (公益社団法人 日本環境教育フォーラム 事務局長)
暮らしの中のエコ活動	崎田 裕子 (ジャーナリスト 環境カウンセラー)

(敬称略)

●最終審査会審査員

川北 秀人 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者)
佐々木 真二郎 (環境省 大臣官房総合政策課 民間活動支援室長)
入江 彰昭 (東京農業大学 教授)

(敬称略)

審査講評

今年度も多数のご応募をいただいたことに深く感謝いたします。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられ、全国で多様な活動が再開されましたが、この数年間にも高齢化や人口減少はさらに進み、担い手不足はあらゆる分野で深刻化しています。このため当助成も次世代の育成を願って「未来へつなごう」助成を新設し、NPO基盤強化助成を拡充する意向で選考に臨みました。

活動助成にもNPO基盤強化助成にも共通するポイントは、環境・生態系や人々の暮らしにおけるニーズ、課題解決や価値創出の手法の具体性、そして組織や地域に「残る」成果です。NPO基盤強化助成の審査では、組織の内外での人材育成や、情報開示やノウハウ活用による資金調達の拡充がどれだけ期待できるかが大きな論点となりました。環境も活動も組織も、ともに持続可能性が高まるご提案を次年度も楽しみにお待ちしております。

最終審査会審査員 川北 秀人 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者)

2024年度 一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

「環境市民活動助成」助成先決定!

助成応募総数 **425件**



助成決定件数 **269件**

助成総額 **1億2629万2817円**

2024年3月29日現在

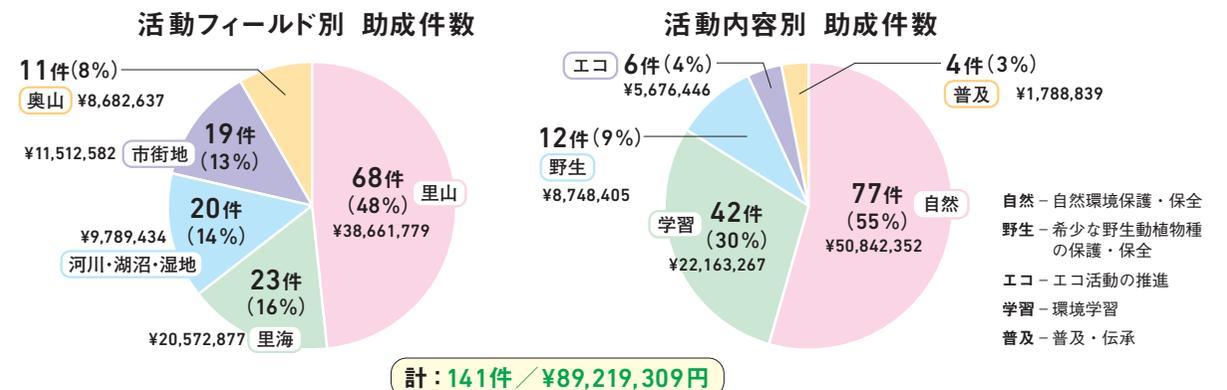
環境市民活動助成は、お客様がセブン-イレブン記念財団への募金を通して、地域の環境活動を支援する市民参加型社会貢献の仕組みです。

2001年から現在まで、助成金を全国の環境市民団体にお届けし、地域活動を支援しています。

2024年度の環境市民活動助成では、セブン-イレブン記念財団は設立30周年記念メニューとして新たな助成制度「未来へつなごう」助成を新設しました。お客様のご協力に感謝申し上げますと共に、更なるご支援とご協力をお願いいたします。

助成の種類と助成決定結果

助成の種類	助成の主旨と特徴	応募件数	助成決定件数	助成決定金額
未来へつなごう助成	地域の環境課題解決のために活動する大学生・大学院生の取り組みを1年間支援します	11件	9件	2,320,098円
活動助成	自然環境保護や生物多様性の保全、気候変動対策、体験型の環境学習など、市民が主体となって行う環境活動を1年間支援します	236件	129件	75,334,873円
NPO基盤強化助成	地域の課題解決のために行う革新的かつ持続可能な自主事業の構築・確立をめざすNPO法人に対し、事業資金・専従職員の人件費・事務所家賃を原則3年間支援します	30件	3件	11,564,338円
地域美化助成	ごみのない、緑と花咲く街並みをつくる活動を1年間支援します	148件	128件	37,073,508円
合計		425件	269件	126,292,817円



※地域美化助成を除く、未来へつなごう助成・活動助成・NPO基盤強化助成の集計結果を示しています。

セブン-イレブン記念財団 からのお知らせ

理事長交代の挨拶

いつもセブン-イレブン記念財団へのご理解・ご協力ありがとうございます。

この度理事長に就任いたしました太田敏夫と申します。

セブン-イレブン記念財団は、セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年記念事業として、セブン-イレブン加盟店と本部が一体となって“環境”をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的に設立されました。

前任の山本憲司理事長が設立以降30年導かれたことに感謝の心をもって、更に飛躍できるようこれからも環境市民団体やセブン-イレブン加盟店およびセブン-イレブン本部と力を合わせて、活動内容の充実を図り、地域に根ざした社会貢献活動を展開してまいります。

これからも皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

太田敏夫

(セブン-イレブン富士吉田おひめ坂通り店 オーナー)



太田敏夫理事長

2025年度「環境市民活動助成」のお知らせ

セブン-イレブン記念財団では、市民の皆様が主体的に行っている地域の環境活動を「環境市民活動助成」という形で支援しています。皆様からのご応募お待ちしております。

2024年9月15日(日)～10月31日(木) ※予定

※助成の種類により、応募期間が異なります。
詳細は9月掲載予定のホームページをご確認ください。

活動レポート

セブン-イレブン記念財団が支援(助成)している団体からお便りが届きました!

筑紫南コミュニティ運営協議会(福岡県筑紫野市)

「花いっぱい運動」で 帰りたくなる故郷づくりを

地域美化助成

<https://minamikomikyou.jimdofree.com/>



筑紫南コミュニティ運営協議会ふるさと創生部会では、「歴史と自然に囲まれた我が街、筑紫南地区を花でいっぱいの町にしよう!」というスローガンの下、花いっぱい運動を始めて6年が過ぎました。部会員やボランティアの皆さんの力を借りて、地区内の歩道や公民館に四季折々の花を咲かせるだけでなく、小学校と連携し、子どもたちにも花の苗を増やし育てる作業(さし芽作業)を指導しています。切り分けた苗を3～5個の新しいポットに植え、1ヶ月程度お世話をして増やし、それを各地区の公民館などに配布しています。子どもたちが育てた花が地域内で咲きほこり、住民の皆さんの心の癒しとなっているのはいうまでもありません。花いっぱいのきれいな街にすることで、防犯効果が生まれます。そして住みやすい街になれば、地域で育った子どもたちがふるさとに帰ってくるようになります。少子高齢化が進むいま、私たちの活動をこの街の未来を創造する力にしたいと思っています。



真剣な面持ちでいいねいさし芽作業をする子どもたち



1ヶ月ほどお世話をした花苗の贈呈式

贈呈した苗を公民館に植付け

530運動環境協議会(愛知県豊橋市)

持続可能な「530のまち」 を目指して

地域美化助成

<https://www.530toyohashi.jp>



豊橋市の花「つつじ」をあしらった530ごみ袋



汐川干潟クリーンアップ大作戦の様子



保育園での環境教育講座の様子

530運動は、「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」を合言葉に、1975年に豊橋から始まった環境美化活動です。誰でもどこでも取り組める気軽さと「ゴミゼロ」というネーミングのユニークさから、全国へと広がっていきました。

協議会では、春と秋の2回、全市一斉清掃活動である530運動実践活動と呼び掛けています。行政だけでなく、自治会をはじめとした市民団体や地元の小中学校、地域の事業者の方も積極的に取り組み、美しく住みやすいまちづくりを自分たちの手で進めています。また、汐川干潟や豊橋駅前ほかで清掃イベント「クリーンアップ大作戦」を開催し、協議会の会員をはじめ、多くの方にご参加いただいています。

そのほか、保育園などを対象に園児が参加する劇を実施し、「ポイ捨てしない心」などの環境意識を学んでもらっています。

ごみを拾う人は、ごみを捨てません。今後も、ごみを拾うことで、ごみを捨てない心を育み、環境美化に努めていきます。

セブン-イレブン記念財団『みどりの風』アンケート

2024年夏号 特集「飛び出せ！浜辺へ 干潟遊びのすすめ」

2024年6月吉日

Q1 面白い、役に立ったと感じた記事を、口欄にレ点をつけてお選びください。(複数回答可)
また、それについての感想があれば下の 欄にご記入ください。

<input type="checkbox"/> 干潟で感じよう！ 乗代雄介 <input type="checkbox"/> ささき隊長とゆく！みんなで干潟の探検隊 <input type="checkbox"/> 海に漂うプラスチックゴミを減らそう 中学生社長の挑戦 mocomoco ちゃん <input type="checkbox"/> 日本一の干潟 有明海の食のめぐみ 山本 謙治 <input type="checkbox"/> ゲッチョ先生のおすすめ本 盛口 満 <input type="checkbox"/> われら海辺の調査隊 <input type="checkbox"/> 小さなビオトープの作り方	<input type="checkbox"/> 自然学校で学ぼう！！ <input type="checkbox"/> 脱炭素チャレンジカップ ほとんどが廃棄される米糠から代替肉を作ることに成功 <input type="checkbox"/> セブン-イレブン記念財団 2024年度 「環境市民活動助成」助成先決定！ <input type="checkbox"/> 活動レポート <input type="checkbox"/> セブン-イレブン記念財団からのお知らせ
---	---

Q2 本誌に対するご意見・ご感想、今後読んでみたい記事など、ご自由にご記入下さい。

Q3 本誌をどのような立場でお読みになりましたか？

- | | | | |
|--|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> セブン-イレブン加盟店オーナー | <input type="checkbox"/> 加盟店従業員 | <input type="checkbox"/> 行政機関 | <input type="checkbox"/> 企業 |
| <input type="checkbox"/> 環境市民団体 | <input type="checkbox"/> サポートセンター | <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | |
| <input type="checkbox"/> 財団・社団法人 | <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 年齢についてご記入下さい。

- (年齢) 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上

●アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で3名様にセブンプリカ(1000円分)をプレゼントいたします。ご希望の方はお名前・ご住所をご記入ください。

★プレゼントの応募締切 : 2024年7月31日(当日消印有効)★

お名前: _____

〒 _____
ご住所: _____

※ ご記入いただいたお名前・ご住所は、プレゼント発送以外の目的では使用いたしません。

セブン-イレブン記念財団 FAX : 03-3261-2513

各位

『みどりの風』2024年夏号送付のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

『みどりの風』は、広報事業のひとつとして2005年より発行しており、日本各地で自然環境の保護保全に尽力されている個人や団体をとりあげ、「人と自然の共生」のための新しい視点や方向性を提示していく広報誌です。小学校高学年から中学生を対象とした「特別子ども号」を発行しましたので、お子様たちと一緒に読みいただければ幸いです。

当財団では、皆様から率直なご意見・ご感想をいただき、これからの活動と広報誌『みどりの風』の誌面づくりに活かしていきたいと考えております。今後ともセブン-イレブン記念財団ならびに広報誌『みどりの風』をよろしくお願い申し上げます。

敬具

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団
〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8
TEL:03-6238-3872 FAX:03-3261-2513

～皆様のご意見・ご感想をお聞かせください～

WEBでのアンケート入力が可能になりました。

こちらのURLまたはQRコードよりお願いいたします。

【URL】 <https://ws.formzu.net/dist/S50941006/>



従来どおり FAXでのアンケート受付も可能です。

裏面のアンケート用紙にご記入の上、セブン-イレブン記念財団 事務局まで FAXしていただけますようお願い申し上げます。2024/7/31まで(当日消印有効)

セブン-イレブン記念財団 FAX:03-3261-2513

アンケートにご回答いただいた皆様から抽選で3名様

にセブンプリカ(1000円分)をプレゼント!



セブン-イレブン記念財団『みどりの風』学校向けアンケート
2024年夏号 特集「飛び出せ！浜辺へ 干潟遊びのすすめ」

2024年6月吉日

Q1 面白い、役に立ったと感じた記事を、□欄にレ点をつけてお選びください。(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 干潟で感じよう！ 乗代雄介 <input type="checkbox"/> ささき隊長とゆく！ みんなで干潟の探検隊 <input type="checkbox"/> 海に漂うプラスチックゴミを減らそう 中学生社長の挑戦 mocomoco ちゃん <input type="checkbox"/> 日本一の干潟 有明海の食のめぐみ 山本 謙治 <input type="checkbox"/> ゲッチョ先生のおすすめ本 盛口 満 <input type="checkbox"/> われら海辺の調査隊 <input type="checkbox"/> 小さなビオトープの作り方	<input type="checkbox"/> 自然学校で学ぼう！！ <input type="checkbox"/> 脱炭素チャレンジカップ ほとんどが廃棄される米糠から代替肉を作ることに成功 <input type="checkbox"/> セブン-イレブン記念財団 2024年度 「環境市民活動助成」助成先決定！ <input type="checkbox"/> 活動レポート <input type="checkbox"/> セブン-イレブン記念財団からのお知らせ
--	---

Q2 本誌に対するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご自由にご記入下さい。

Q3 どのようにして利用しましたか？また、どのような内容を求めていますか？

授業で使用（記入欄： _____）
 授業で使用しなかった（記入欄： _____）

Q4 共有した場合 生徒・先生方の反応はどうでしたか？

生徒（記入欄： _____）
 先生（記入欄： _____）

Q5 広報誌「みどりの風」の無料定期送付を希望しますか？

希望する 希望しない

●アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様にセブンプリカ(1000円分)をプレゼントいたします。ご希望の方は、学校名・お名前・ご住所をご記入ください。

●アンケートの回答締切：2024年8月31日(当日消印有効)

学校名： _____ お名前： _____

ご住所：〒 _____

※ご記入いただいた学校名・お名前・ご住所は、プレゼント発送以外の目的では使用いたしません。

(一財)セブン-イレブン記念財団 FAX：03-3261-2513

各位

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団 西口
〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8
TEL:03-6238-3872 FAX:03-3261-2513

『みどりの風』2024年夏号送付のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当財団は、全国のセブン-イレブンの店頭募金箱に寄せられたお客様からの募金と(株)セブン-イレブン・ジャパン、企業、団体、個人の皆様からの寄付金をもとに地域に根差した環境市民団体の活動支援や環境をテーマとした社会貢献活動に取り組んでおります。

「みどりの風」は、広報事業のひとつとして2005年より発行しており、日本各地で自然環境の保護保全に尽力されている個人や団体を取りあげ、「人と自然の共生」のための新しい視点や方向性を提示していく広報誌です。小学校高学年から中学生を対象とした「特別子ども号」を発行しました。先生方から率直なご意見・ご感想をいただき、これからの誌面づくりに活かしていきたいと考えておりますので、ご一読いただけますと幸いです。

また当財団のホームページからも「みどりの風」のダウンロードが可能です。無料定期送付を希望される場合は、下記QRコードからお申し込みをお願いいたします。

ご案内かたがた宜しく願い申し上げます。

敬具

記

※今後も冊子での無料定期送付(年4回春・夏・秋・冬号)を希望
(アンケートを回答しない場合、こちらよりお願い致します)

<https://ws.formzu.net/dist/S75655804/>



※ご意見・ご感想をWebアンケートよりお聞かせください
(アンケート内にて無料定期送付の希望が選択できます)

<https://ws.formzu.net/dist/S95929061/>



※FAXでのアンケート受付も裏面より可能です。

セブン-イレブン記念財団 事務局まで FAX お願い致します。

※アンケートにご回答いただいた皆様から抽選で10名様にセブンプリカ(1000円分)をプレゼント！ご協力、よろしく願い致します。